

府中宿・城下コース 家康公が愛した町を歩く ● 約3km

江戸幕府を立ち上げた徳川家康公、それを終焉させた15代将軍徳川慶喜公の両名が府中に暮らしたことはこの町の魅力を語っていると思います。気候、町も人柄も良い駿府の魅力体験します。

1 小梳神社

祭神は建速須佐之男命と奇稲田姫命(少将井)でした。家康公が今川家の人質時代に神社傍に住居し、日夜武運長久を祈願したと伝えられ、天下平定後、代々徳川家の守り神である大己貴命、天照大神の2柱を合祀し、駿府城の守護神としました。境内に湧き出る水は江戸時代から、「霊水・少将の井」と呼ばれ、病氣平癒・健康増進の霊水として知られています。

2 浮月楼

府中は幕府の天領だったため、殿様ではなく、幕府から代官が赴任し、治めていました。ここは元駿府代官屋敷跡です。明治時代には政府に接収されましたが、徳川家の所有となり、21年間、徳川慶喜公が住んでいました。慶喜公は、明治21年(1888年)西草深の邸に移り住んだ後は料亭になっています。建物は火災等で残っていませんが庭園は平安神宮も手がけた庭師による池泉回遊式もので公が愛した名庭として名高いものです。

3 宝台院

永正4年(1507)開基の浄土宗のお寺です。徳川2代将軍秀忠生母で家康の側室「西郷局お愛の方」の墓があります。秀忠は寛永3年(1626)ここに生母のために寺と霊廟、異形五輪石塔を建てました。寺の書院には二条城のように床の間や壁面に桃山風の豪華な絵が描かれていたようですが、静岡大火と戦災ですべて焼失してしまいました。本尊は国指定重要文化財。慶喜公が將軍職後の謹慎生活をしていた場所でもあります。

4 別雷神社

応神4年(273)年に創建され、玉依姫命と別雷神の二座が祀られました。京都の賀茂別雷神分霊社であり、足利義政、今川家、武田家、豊臣秀吉、徳川家康ら武將の崇拝も厚かったようです。

静岡おでん
戦後、青葉公園(青葉シンボルロード)には約200台のおでん屋台がりましたが、都市開発のもと撤去されることになり、屋台の一部が横丁などに移転しました。現在「おでん横丁」は青葉おでん街、青葉横丁、ちゃつきり横丁、青葉小路横丁があります。



- 旧東海道
- お勧め探訪コース
- 情報拠点 ● 見どころ
- 案内板・説明板・マップ
- 駿府浪漫バス(土日のみ)
- 駐車場 WC トイレ
- コンビニ 銀行

駿府城公園
壮大な城であった駿府城は、地震や大火で石垣と塀だけとなくなりましたが、平成元年に柵形門であった二の丸東御門と巽櫓が復元されています。



5 十返舎一九

弥次さん、喜多さんでおなじみの「東海道中膝栗毛」を執筆した当時のベストセラー作家です。父親は徳川家の家臣。本があまりにも好評で旅行ブームを巻き起こし、東海道以外についても執筆しています。江戸時代は戦争もなく平穏なので旅行が盛んで、この本が旅行ブームに拍車をかけたようです。

6 札之辻

高札場があった場所です。高札とは、幕府からの通達事項などを掲げる情報板で、辻ともいわれました。宿場や村には必ず高札場が設けられ、人々に法令や定(賃金の改定なども含む)を周知させていました。札之辻の高札場は、この界隈は当時も商家が連なり賑わっていたようです。

7 教導石

「教導石」の文字は、旧幕臣山岡鉄太郎(鉄舟)の筆であり「富や知識の有無、身分の垣根を越えて互いに助け合う社会を目指す」との趣旨に賛同した各界各層の善意で明治19年(1885)7月に建立されました。この石の右側が「尋ル方」左側に「教ル方」とし、相談事、知りたい事、苦情などの内容に答えを寄せるというものでした。ほかに店の開業広告、発明品や演説会の広告から遺失物や迷子をさがす広告なども掲示してよいことになっていたようです。

